



9月8日(金)

市民連合



田上 辰也議員

質問1

LRT(※3)環状線を～車依存の街からの変身～

TSMCなどの進出を受け、交通渋滞対策として、関係市町を含めた鉄軌道の環状線の実現を目指してはどうか。



答弁

県や関係市町村などと熊本都市圏都市交通マスタープランを策定し、道路や市電も含めた将来の熊本都市圏交通全体のビジョンを示す。

質問2

学校の宿題をなくす取り組みを

親の手伝いが必要な宿題は、家庭環境から難しい子どももいる。宿題をなくす取り組みを。

答弁

家庭での学習は大切なことであるため、宿題をなくすことは考えていないが、そのあり方については研究していく。

公明党



吉田 健一議員

質問1

グリーンボンド(※4)の発行は

議会内に提案し2年が経過した、環境に特化した資金調達手段であるグリーンボンドの発行見通しは。



答弁

本年中に50億円の発行を目指し、現在、事務的な手続きを進めており、県内自治体初となるグリーンボンド単独発行を実現する。

質問2

地域力パワーアップ大作戦(※5)は全区での実施を

東区で成功している東部まちづくりセンター発案の「パワーアップ大作戦」の今後全区での事業実施・拡大は。

答弁

各区において、「パワーアップ大作戦」も参考に企業との連携強化を図りつつ、引き続き地域の特性に応じたまちづくりに取り組む。

9月11日(月)

自民党



日隈 忍議員

質問1

がん対策を中心に今後の健康づくり

がんは市民にとって最大の健康課題と考える。がんを専門的に担う体制の必要性があるのではないかと。

答弁

がんは本市にとって重要な健康課題の一つであることから、議員ご提案のがん対策を専門に取り扱う班の編成などについて検討する。

質問2

義務教育の質を確保するための人材育成・確保

教育現場は厳しい状態であり教員の不安を解消するためにも、教員不足解消の見通しについて問う。

答弁

定年延長も踏まえ、計画的に正規採用の教員数を増やすことで、教員不足が今後改善に向かうと見込んでいる。



熊本自民



高本 一臣議員

質問1

JR新水前寺駅とバス停の結節

現在、JR新水前寺駅とバス停の結節については、関係機関と協議中であるが、その見通しと進捗状況は。



答弁

新水前寺駅周辺道路は交通の要所区間でさまざまな課題があるが、引き続き関係機関と協議しながら取り組んでいく。

質問2

産後ケア事業の充実

現在の通所型は母子の心身の負担が大きいことから、居宅訪問型(アウトリーチ)の導入を検討すべきでは。

答弁

出産直後は外出への負担が大きく、居宅訪問(アウトリーチ)型へのニーズは高いと考えられるため、導入に向け検討していく。

自民党



村上 誠也議員

質問1

人件費上昇に応じた指定管理団体への支援を

最低賃金の引き上げにより、人件費も物価の変動に伴う燃料光熱水費と同様にリスク分担の対象とはならないのか。

答弁

現時点では人件費の変動は指定管理者が負担できる範囲内と考えているが、今後の人件費の動向を注視し、他都市も参考に研究する。

質問2

西南部の道路に関する課題と対策

国道501号飽田バイパスは着工から28年が経過しているが、開通時期と課題。また冠水対策への対応を問う。

答弁

地域の理解と協力を得ながら、当路線の早期供用に向け着実な事業推進に努めるとともに、冠水被害の防止と軽減に取り組む。



9月12日(火)

熊本自民



藤山 英美議員

質問1

即効性ある交通渋滞対策について

渋滞解消対策は用地買収をしなくてもできるスマート交差点(※6)への改良工事を軸に据えるべきではないかと。



答弁

スマート交差点は、安価で早期の効果発現が期待できる極めて重要な取り組みであり、現在、整備候補箇所の選定を進めている。

質問2

違法政治活動用立て看板等の現状認識の対応

公選法違反と思われる政治活動用立て看板が道路や空地に設置されているが、市の認識と対応について問う。

答弁

証票が貼付されていない政治活動用立て看板の存在は認識。今後、証票の更新時期に公選法の主旨などを十分に説明し証票を交付する。



おしえてひごまる

- LRT(※3) Light Rail Transitの略で、低床式車両(LRV)の活用や軌道・電停の改良による乗降の容易性、定時性、速達性、快適性などの面で優れた特徴を有する軌道系交通システムのこと。
- グリーンボンド(※4) 調達資金が気候変動の緩和、自然資源の保全など環境関連の事業に充当され、かつ、グリーンボンド原則の4つの核となる要素(調達資金の使途、プロジェクトの評価と選定のプロセス、調達資金の管理、レポート)に適合している債券のこと。
- 地域力パワーアップ大作戦(※5) 令和4年度より東区で実施している「まちづくり応援事業」。「困りごとがある“地域”」と「地域に貢献したい“企業”」をつなぎ、地域と企業が連携して地域課題の解決に取り組むことで、活気あふれる持続可能なまちづくりを支援している。
- スマート交差点(※6) 既存道路の幅員内で車線の割り振りの変更や、信号サイクルの調整を行うことにより、渋滞緩和を図るもの。用地買収を伴わないため、安価で早期の効果発現が期待できる。

